



©日本非破壊検査協会

工業会

The Japanese Association For Non-Destructive Testing Industry (JANDT)

発行元 一般社団法人日本非破壊検査工業会

〒101-0047

東京都千代田区内神田2丁目8番1号 富高ビル3F

電話 03-5207-5960 FAX 03-5207-5961

URL : <https://www.jandt.or.jp/>

編集 : 広報部会

第22回 日本非破壊検査工業会 技術討論会を開催



技術討論会のもよう



パネルディスカッションのもよう



長岡康之理事長

技術部会（安田裕之部会長）は、7月23日、広島YMCA国際文化センター 国際文化ホールにおいて、第22回技術討論会を開催した。今回は広島で初めての開催となり、117名が参加した。テーマは「プラント保全DXの実装と次世代エネルギーへの適応－非破壊検査の新たな役割－」。プラント保全分野で進むDXと、カーボンニュートラルに向けた次世代エネルギーへの対応を軸に、非破壊検査が今後果たすべき役割について幅広い講演と討論が行われた。

古賀美智恵実行委員長（九検）の開会宣言に続き、主催者を代表して長岡康之理事長は「AIをはじめとするデジタル技術が急速に進展する中、中小企業においても業務への適切な活用が重要であり、本討論会が参加者の今後の業務に役立つ機会となることを期待する」と挨拶した。

午前の部は、福馬雅之座長（日本シーレーク）の進行で行われた。最初の基調講演では、広島大学大学院先進理工系科学研究科の小川裕樹先生が「マルチマテリアル接合部における赤外線計測を用いた非破壊検査手法の開発」をテーマに講演した。赤外線計測による損傷過程の評価や、散逸エネルギー計測、アクティブサーモグラフィを用いた非破壊検査への適用可能性について研究成果が示された。次に、同研究科の田中義和先生が「洋上風力発電及び環境振動発電」をテーマに講演した。洋上風力発電の概要や浮体構造物の解析及び環境振動発電について、有限要素法の適用や誘電体を用いた研究事例などが紹介された。続いての講演では、同研究科の市川貴之先生が「カーボンニュートラル現実に向けた水素の役割」をテーマに講演した。2050年のCO2排出実質ゼロの目標達成に向けた水素活用の重要性を示し、課題解決に向けたカーボンリサイクル技術の可能性について述べた。

午後の部は、金子哲也座長（富士電子工業）の進行で行われた。最初の一般講演では、岡野バルブ製造の菊池勇太取締役が「保守・メンテナンスのIoT・ロボット活用の展望について」をテーマに、発電設備の保守・メンテナンス分野におけるIoTやロボットの活用等を紹介した。講演後には、機械化による工数削減と事業収益の関係についても質疑が交わされ、成果を基準とするビジネスへの転換という視点が示された。続く講演では、東亜非破壊検査の阿部龍郎管理本部長が「非破壊検査のDX化へ－当社の取り組み－」をテーマに講演した。検査員が本来の検査業務により専念できる環境づくりを目指したDXの取り組みなどを紹介した。また、DXの実装には現場とのコミュニケーションが重要であるとの考えも示された。

最後の特別講演では、経済産業省 製造技術統括調査官の栗原一真氏が「我が国製造業の高度化に向けた戦略展開－製造AX拠点構想・AIロボティクス戦略・中小企業支援施策－」をテーマに講演した。製造業の高度化を進めるための製造AX拠点構想などが紹介され、デジタル技術の活用を通じた今後の製造業の方向性が示された。

講演終了後のパネルディスカッションは、田中義和先生をモデレーターとして、「DX×GX時代の非破壊検査－自動化・信頼性・人材－」をテーマに行われた。登壇者を交え、熟練技術者の減少や人手不足、検査の自動化・効率化、技術継承・人材育成などについて意見交換が行われ、活発な討論となった。

閉会にあたり、安田技術部会長は、関係各位への謝意と非破壊検査技術の将来像を多角的に考える有意義な機会となったと述べ、第22回技術討論会は盛会のうちに終了した。

機材支部 令和8年度支部大会を開催

機材支部（清良平支部長）は、6月19日（金）に川崎商工会議所において支部大会を開催し会員企業等から約50名が出席した。

冒頭のあいさつで清支部長は「このたび機材支部長を拝命し、その責任の重さを深く受け止めております。歴代支部長をはじめ、諸先輩に心より敬意を表しますとともに、支部の発展と会員相互の連携強化のため、努めてまいります」と述べた。

続いて、令和7年度の事業報告及び監査報告等並びに令和8年度の会務担当役員及び事業計画等の報告、表彰者の発表が行われた。

特別講演は、マテリアルの細貝淳一氏より「下町ボブスレー、復活のゴール」と題し、世界のトップレベルへ挑戦する日本製のソリを開発するプロジェクトの軌跡について講演があった。細貝氏は、2011年、下町ボブスレーネットワークプロジェクトを立ち上げ、推進委員会を発足し、企画書を持って大田区の中小企業を訪問した。ゼロからの始まり、翌年すぐに全日本選手権で採用され優勝、その後の五輪での苦戦と挑戦の現場をリアルに語られた。

場所を移しての会員交流会は、過去最多の出席者で会場は盛り上がり、会員同士の情報交換と親睦深める機会となった。



機材支部大会のもよう



清良平支部長

西日本支部 令和8年度支部大会を開催

6月25日（木）、リーガロイヤルホテル小倉において、出席者33名のもと「西日本支部 令和8年度 支部大会」を、野口博文副支部長の司会にて開催した。冒頭、清水重之支部長は、会員企業の皆様に対してご支援とご協力の謝辞を述べ、「中東情勢が悪化し、地政学的リスクに伴い、これまで以上に厳しい時代に直面している。非破壊検査業界にも人材不足や、物価高騰と人件費上昇等、多数の課題がある。こうした中、当工業会を魅力ある団体にすべく活発に活動している。一例として『配筋探査資格試験の国家資格化』への調査・検討や、『工業会119』の活性化を進めている。また、支部活動では7月23日に広島にて『第22回 技術討論会』を、西日本支部が主催し開催する。今年度も皆様のご期待に沿った支部づくりに取り組んで参りますので、ご支援とご協力を」と挨拶した。

次に長岡康之理事長より、「課題の一つである人材不足解決に向けて魅力ある工業会づくりの取り組みと、工業会収益向上への活動にご理解とご支援を賜りたい」と述べた。

続いて、「令和7年度 活動報告」「収支計算書」「監査報告書」「令和8年度 事業計画」が報告され、「令和7年度 表彰式」が執り行われた。

会場を移しての懇親会には39名が参加した。金子哲也教育委員長の司会にて開会し、清水支部長の開会挨拶に続き、衆議院議員斉藤鉄夫事務所の稲田隆則秘書、北九州市議会の中島隆治議員がご挨拶され、長岡理事長の乾杯の音頭で懇親会が開宴した。その後、福岡県溶接協会の友松一郎理事長からご挨拶を頂き、来賓及び会員同士の名刺交換や活発な情報交換と親睦の輪が広がり、宴たけなわのところ松村康人顧問の一本締めで散会となった。



支部大会のもよう



清水重之支部長

豊かな経験・確かな技術

非破壊検査全般 ◆ 建築物設備配管劣化診断 ◆ コンクリート躯体調査・埋設物調査

JASCO 株式会社 **ジャスコ**
JAPAN SKIAGRAPH CO., LTD.

本社 〒222-0033 横浜市港北区新横浜1-23-3
TEL 045-(473) 5140 FAX 045-(473) 5141
札幌営業所 〒003-0833 札幌市白石区北郷3条11-4-20
TEL 011-875-4166 FAX 011-875-0666
E-mail: eigyou@kk-jasco.co.jp https://www.kk-jasco.co.jp/

お客様に寄り添い共に協力して

迅速かつ正確な検査サービスを提供し

安心安全な環境作りをモットーに企業活動して参ります

新東技検株式会社
ShintoGiken https://www.shinto-giken.co.jp/

本社 〒224-0054 横浜市都筑区佐江戸町393番地6
TEL 045-929-1533(代) FAX 045-929-1534
埼玉出張所 〒367-0042 埼玉県本庄市けや木2丁目3番1号
TEL 0495-21-1946 FAX 0495-23-3928

東日本支部 令和8年度支部大会を開催

東日本支部（田中崇支部長）は7月10日（金）、東京都港区のTKP浜松町南口ビジネスセンターにおいて会員約34名の出席の下、令和8年度支部大会を開催した。

冒頭、田中支部長は、日頃のご支援・ご協力に謝意を表したうえで「非破壊検査業界は、検査を支える高度技術者の高齢化や人手不足を課題として抱えている。一方で他の業種は人手不足感がそれほどでもない。業界の魅力、職業的な魅力を上げることが重要であり、社会的な信頼度・認知度を向上させ、公共性の高い業種である非破壊検査の価値が正当に評価されることで、若者が誇りをもってこの業界に入って来られるような発信をすることが必要、その柱となるのが資格制度であり国家資格化を確りやっていく。また、AI・DXを導入することで、お客様に付加価値の提供が可能であり、検査・診断だけでなく予防保全でも貢献することが業界の価値ある道筋ではないかと考える」と述べた。

続いて、長岡康之理事長の挨拶及び令和7年度の事業報告と令和8年度の会務担当並びに事業計画についての報告があり、令和7年度表彰式が行われた。特別講演は、日本建築情報総合センターの山田邦博理事長（元国交省事務次官）により「これからの防災について」と題して、激甚化・頻発化する自然災害に、国土強靱化に資する治水対策や気候変動に対応した水災害対策などについて興味深い講演が行われた。

会場を移しての懇親会は、日の出頭からの東京湾クルーズで大いに盛り上がり、会員相互の情報交換や親睦を深めるところとなった。



支部大会のもよう



田中崇支部長

関西支部 令和8年度9月例会兼経営交流会を開催

9月4日、関西支部は9月例会兼経営交流会を出席者39名のもと、ホテルマイステイズ新大阪コンファレンスセンターにおいて開催した。冒頭、的場正文支部長は出席者への謝辞の後、「非破壊検査業界は、インフラ老朽化による需要増と、技術者不足・高齢化という供給側の危機が交差する構造的転換点に直面している。この状況下で、関西支部は、AIやDXといったデジタル技術を効率化ツールとしてではなく、属人化した「匠の技」を形式知化し、次世代へ技術伝承するための戦略的基盤と位置付けている。本日の経営交流会は、単なる情報交換の場ではない。各社が個別に抱える課題に対し、デジタル技術の活用という共通解を軸に、具体的な知見や連携の可能性を模索する、業界全体の生存戦略を賭けた第一歩であり、課題に対し会員企業と共に技術向上、人材育成、新技術への挑戦を推進していく責務を負っている。」と挨拶をした。

例会では、本部及び各支部の活動実績等の報告及び経営交流会が開催された。特別講演は、神奈川県労務安全衛生協会の増田和義安全衛生教育担当が「企業における労働安全衛生管理体制と直近の改正安衛法について」と題して講演が行われた。検査機器の紹介では、KS-NETより、WAVTEC社の渦電流探傷器「NORTEC 700」の3つの主要な製品コンセプトについて従来の渦電流探傷器と比較しながらの説明があった。その後、会場を移して、福瀧周三幹事の司会で、岡村視巧幹事の挨拶・乾杯の後、会員各社の情報交換・歓談が和やかな雰囲気の中で行われた。



支部大会のもよう



的場正文支部長

工事の要・貫く力

最高峰のクオリティを追求します。

鉄筋探査

レントゲン探査

各種あと施工アンカー工事
アンカー引張確認試験
スクリューギア打設工事
スタッド工事
ダイヤモンドコア工事

ハズリ工事
ダイヤモンドコアビット販売
ハンドカッター販売
カップサンダー販売
道路用ブレード販売



社団法人 日本建設あと施工アンカー協会加盟

中央総業株式会社

神奈川県相模原市南区相模大野 3-20-1 中央総業ビル 4F

TEL 0120-07-1222 FAX 0120-07-5585

CIW認定 A種
労働者派遣事業許可
ISO9001認証 JMAQA-1749

想像から創造へ 今感動の技術



株式会社 ダンテック

- 非破壊試験検査全般
- 各種プラント保守点検
- 品質管理
- 建築・土木構造物調査診断
- 各種設備・配管劣化調査
- 破壊試験・化学分析等材料試験

本社 〒530-0043 大阪市北区天満4丁目14番13号
TEL 06-6354-3641 FAX 06-6354-2707
<https://www.dantec.co.jp/>

溶接形状・内部品質の可視化と検査リードタイム短縮を実現するアダプティブUT

1. はじめに

近年、発電プラント（図1参照）をはじめとする大型構造物の製造・保守分野では、安全性や品質を確保しながらリードタイムを短縮することが求められている。こうした要求に対して、非破壊検査には単なる欠陥検出だけでなく、施工効率化や製造プロセス改善に貢献する役割が期待されるようになってきた。超音波探傷試験（UT）は、放射線透過試験（RT）と比較して作業制約が少なく、現場適用性に優れる手法として広く活用されている。一方、溶接部の余盛や裏波など複雑な形状を有する部位では、反射波の解釈が難しく、検査結果が検査員の知識や経験に依存する場合があった。三菱重工業株式会社では、このような課題を解決するため、複雑な形状を有する対象に対しても高精度な評価を可能とする「アダプティブUT」を開発した。本技術は、従来のUTでは検査が困難であった部位の品質確認を可能にするとともに、溶接品質の可視化や検査リードタイムの大幅短縮を実現する技術として実機適用を進めている。

2. アダプティブUTの概要

アダプティブUTは、アレイ探触子と柔軟なソフトゲルを組み合わせ、対象物の表面形状に追従しながら検査を行う超音波探傷技術である。対象表面の形状による超音波の反射や屈折による影響を補正することで、複雑な形状を持つ部材内部を高精度に評価することができる（図2参照）。従来のUTでは、余盛や曲面などによって生じる反射信号の影響から、検査範囲や適用対象に制約が存在した。一方、アダプティブUTでは、形状の影響を考慮した画像再構成を行うことで、従来は困難であった部位の検査を実現している。また、自動走査機構と組み合わせることで探触子位置や走査条件を安定化し、広範囲検査においても高い再現性を確保している（図3参照）。取得された全波形データは画像化され、溶接部の内部状態を視覚的に把握することができる。

3. 「信号」から「見える品質」へ

非破壊検査の現場では、検査結果が専門家による信号解釈に依存するため、施工部門や品質保証部門との情報共有が容易ではないという課題があった。アダプティブUTでは、従来はエコー信号として表現されていた情報を断面画像として表示することにより、溶接余盛、裏波、ルート部、さらには欠陥の位置等を同時に把握できる。この可視化によって、検査員のみならず施工担当者や溶接士も内部状態を直感的に理解できるようになった（図4および図5参照）。溶接施工結果を客観的に確認できるため、品質情報の共有化が進み、検査と施工の間に存在していた情報の非対称性が低減された。さらに、可視化された結果を施工条件へフィードバックすることで、溶接電流や積層条件の最適化、裏波形状の安定化、欠陥低減などの品質改善活動にも活用されている。加えて、溶接士ごとの施工結果を比較可能となることから、技能教育や技量評価への応用も期待されている。

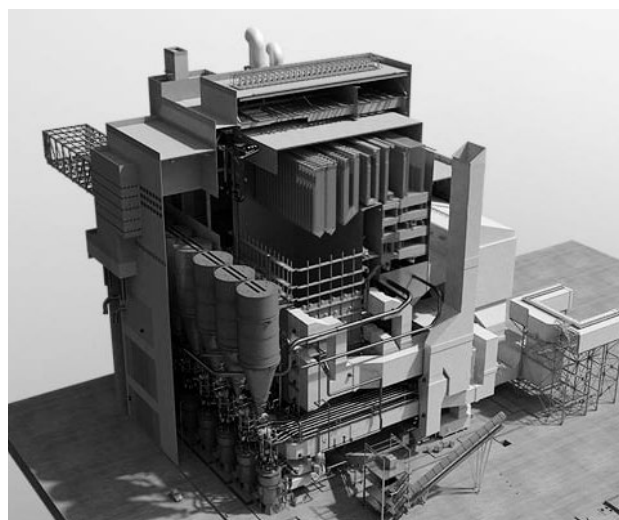


図1 火力発電プラント設備

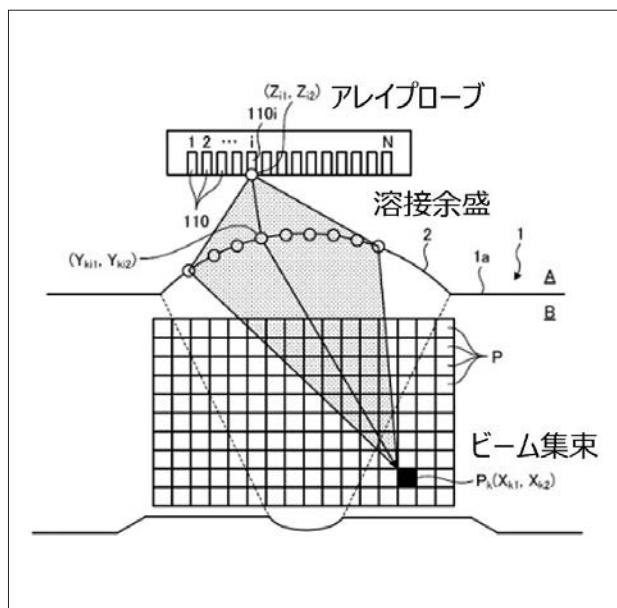


図2 アダプティブUT

4. 検査リードタイム短縮への貢献

アダプティブUTの大きな特徴の一つは、生産性向上への貢献である。火力ボイラの定期点検では、本技術の適用によって検査リードタイムを約70%短縮した実績が得られた。また、放射線管理や周辺作業の制限を必要としないため、施工と検査を並行して実施でき、工程全体の効率化に寄与した。さらに、本技術は発電設備だけでなく、蒸気タービン、特殊車両製品など、複雑形状を有する様々な製品・部位へも適用されている。従来は品質確認が難しかった箇所を評価可能とすることで、設備の信頼性向上だけでなく、品質保証を前提とした設計自由度の向上にも貢献している。また、製造ラインにおけるインプロセス検査への展開も期待されており、将来の更なる製造リードタイム短縮への寄与も見込む。

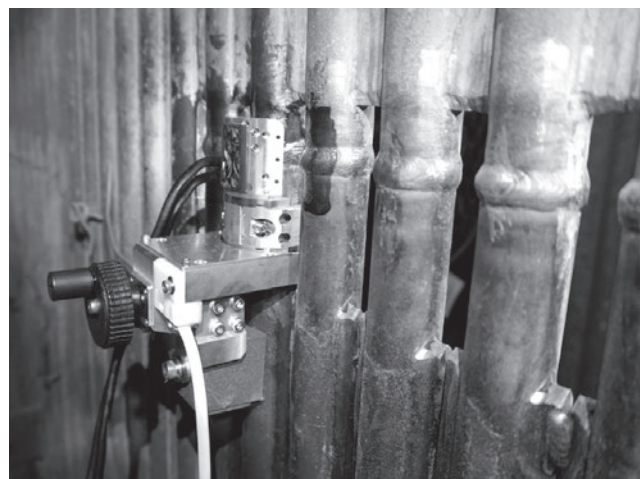


図3 現地配管溶接部の検査状況

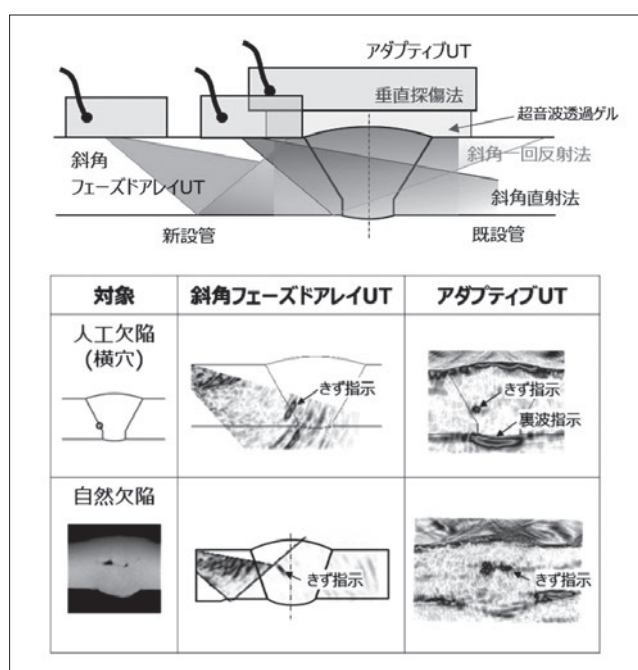


図4 現地配管溶接部の検査結果

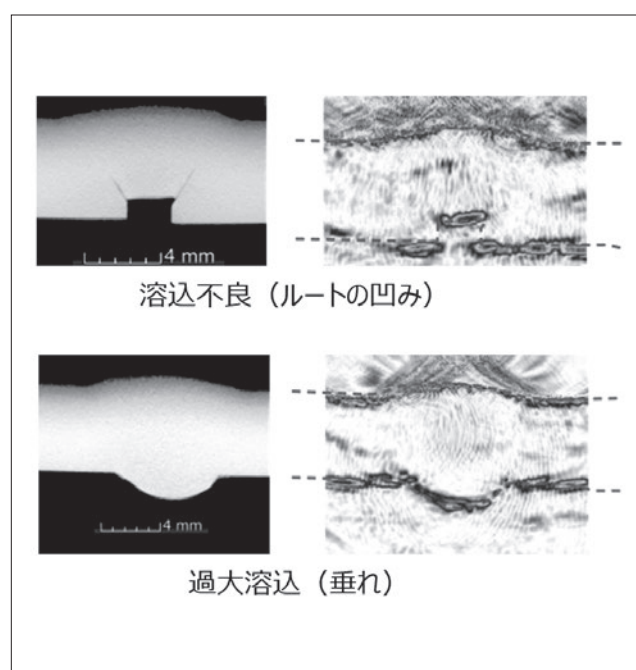


図5 溶接裏波形状の可視化結果

5. おわりに

アダプティブUTは、複雑形状部材に対する超音波探傷を実現するとともに、溶接形状や内部品質を可視化することで、検査結果の説明性と客観性を大きく向上させる技術である。また、その価値は欠陥検出にとどまらない。品質情報を施工へフィードバックし、技能伝承や品質改善に活用できる点に加え、検査リードタイム短縮や工程効率化を通じて、ものづくり全体の変革にも寄与する可能性を有している。今後はさらなる適用対象の拡大に加え、デジタル技術やデータ活用技術との連携を進めることで、非破壊検査の新たな価値創出に寄与することが期待される。

問合せ先：三菱重工業株式会社 総合研究所 電子・物理第一研究室 長崎チーム 林 恭平

TEL：080-8597-6981

Email：kyohei.hayashi.me@mhi.com

URL：https://www.mhi.com/jp

西日本支部 令和8年秋期例会・特別講演を開催

西日本支部（清水重之支部長）は、9月24日午後3時から、ANAクラウンプラザホテル広島において、出席者30名のもと「令和8年度秋期例会・特別講演」を開催した。冒頭、清水支部長は、会員企業の皆様に対して、平素よりの支部活動へのご支援とご協力に謝辞を述べたのち「秋期例会では、支部の前期事業報告及び今後の予定について、特別講演では「企業における労働安全衛生管理体制と直近の改正安衛法について」と題した講演を予定している。これを機会に安全衛生管理体制等向上の参考にしていただけたら幸いである」また「本部活動では、配筋探査技術者資格の国家資格化への取り組みについてWGを立ち上げ、来年度の総会にて承認を得るべく全体ロードマップに沿って活動している。また7月23日に広島で開催された「第22回 技術討論会」においては117名の参加があり大盛況のうちに終了することができた」と語った。

引き続き、清水支部長による前期の支部活動報告並びに、各委員長（広報・技術・安全・教育）による委員会報告及び本部関連報告が行われた。その後、特別講演に移り、神奈川労働安全衛生協会において安全衛生教育担当の専属講師を務める増田和義様より「「企業における労働安全衛生管理体制と直近の改正安衛法について」と題し、熱中症対策を始め企業として理解しておくべき対策や体制について分かりやすく説明した。

休憩を挟んで、会場を移しての懇親会には31名が参加者した。清水支部長の開会挨拶に続き、斉藤鉄夫衆議院議員の稲田隆則秘書からご挨拶を頂き、松村康人顧問の乾杯の音頭で懇親会が開演した。その後、来賓及び会員同士の名刺交換や活発な情報交換と親睦の輪が広がり、宴たけなわのところ野口博文副支部長の一丁締めで散会となった。



清水重之支部長



増田和義講師



秋期例会のよう

JIMA2026 第13回 総合検査機器展に出展

広報部会の展示会委員会（松嶋美乃委員長）は、東京ビッグサイトで9月16日（水）～18日（金）に開催されたJIMA（日本検査機器工業会）主催の総合検査機器展に協賛として日本非破壊検査協会と合同で出展した。総合検査機器展は、非破壊検査機器メーカーが一堂に集まる国内唯一の展示会として、隔年で開催され、最新の検査・計測技術の展示及び技術セミナー等を幅広く紹介している。

展示会委員会は広報活動の一環として、YouTube動画「放射線透過検査“RT”」を映像展示として放映するなどの広報活動に努めた。

YouTube動画「放射線透過検査“RT”」は、清水晃彦氏（中外テクノス）を講師に迎え、中外テクノス工業技術センターの全面協力のもと、三上浩一氏（エム・キュービック）並びに砂川浩一氏（ケンキ）によるコミカルな演出で構成され、非破壊検査を知らない来場者にも興味を持ってもらえる内容となっている。

また、過去の重大事故や災害は、事故直後から新聞・専門紙等で大きく報道され、社会的な関心が高まるとともに、その後の法制度、点検制度、検査技術の見直しにつながった。その事例として1995年1月17日に発生した「阪神・淡路大震災」、2012年12月2日に中央自動車道で発生した「笹子トンネル天井板崩落事故」、2005年11月17日に国土交通省が公表した構造計算書偽装問題として「耐震強度偽装問題」を取り上げ、当時の報道の雰囲気や専門業界における受け止め方を来場者に伝える資料として掲示用ポスターを作成し展示した。



展示会のよう



映像展示のよう



三上浩一氏 清水晃彦氏 砂川浩一氏



掲示用ポスター

労働大学校「非破壊検査実習」への協力

技術部会（安田裕之部会長）は、独立行政法人労働政策研究・研修機構が設立・運営する労働大学校からの協力依頼を受けて、9月1日～2日の両日、労働行政の中核を担う行政職員向けの「検査業務専門Ⅱ（非破壊検査講義及び実習）」を行った。全国の労働基準監督署等から労働大学校（埼玉県朝霞市）に34名の研修生が集まり、ベテラン講師陣から非破壊検査座学講習（2時間30分）及び検査種目毎の実技講習（5時間）を受講した。

検査業務専門Ⅱ（非破壊検査講義及び実習）は、労働安全衛生法第37条第2項の製造許可の審査及び都道府県労働局における同法第38条第1項の検査業務に新たに就くこととなる行政職員に対し、製造許可審査等の担当者として必要な知識を習得することを目的としている。



講義のもよう



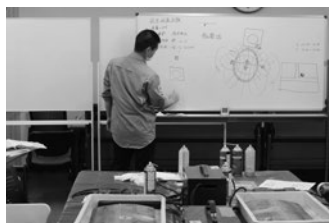
実習のもよう(PT)



実習のもよう(RT)



実習のもよう(UT)



実習のもよう(MT)

また、新たに検査業務等の担当に就くことで、特定機械等の製造許可の申請を受理し適正であるかどうかを審査すること、特定機械等の製造時の検査業務等を的確に行えるようになることなどから、研修中は熱心な聴講姿勢や質疑応答などがあり、非破壊検査に関する知識・技術を身につけることができる有意義な研修となった。

実施日	研修項目	講師（敬称略）
9月1日	講義	前川 真一
	超音波探傷試験	辻 哲平、前川 真一
	放射線透過試験	芥川 秀樹
9月2日	浸透探傷試験	馬上 宏之
	磁気探傷試験	弓野 拓也



壊さず 診る!!

非破壊検査
インフラ調査
プラント検査

東洋検査工業株式会社

【本社】〒640-8306 和歌山市出島 31-5 TEL: 073-471-1311 FAX: 073-474-6211
 【支店・営業所】大阪府堺市／和歌山県和歌山市／
 茨城県神栖市／神奈川県横浜市



“診る”を究めて

人と技術を「安全」という強固な絆で
結び、「安心」を提供します。

新日本非破壊検査株式会社

営業本部 〒803-8517 北九州市小倉北区井堀4丁目10番13号
 TEL: 093-581-1234 FAX: 093-581-4567
 東京営業部 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町16-9
 aLATO日本橋小伝馬町 3階
 TEL: 03-6661-1307 FAX: 03-6661-1308
<https://www.shk-k.co.jp>



サンコウの測定器・検査機器
新型鉄筋探知器 RebarEye

◆位置とかがり厚を迅速探査！JASS5の検査に！

NEW



SANKO 株式会社 サンコウ電子研究所

東京：03-3254-5031 大阪：06-6881-1230 仙台：022-292-7030
 名古屋：052-915-2650 福岡：092-282-6801
 URL <https://www.sanko-denshi.co.jp>

小型・軽量
超音波パルサ・レシーバ JPS-01



- ・外形寸法 W81xD93xH31mm
- ・重量220g、携帯用に最適
- ・ドローンにも搭載可
- ・電源供給はUSBバスパワー

先進技術で未来を見つめる
ジャパンプローブ株式会社

〒232-0033 神奈川県横浜市南区中村町1-1-14
 TEL.045-242-0531 FAX.045-242-0541
 URL <https://www.jp-probe.com/>
 e-mail info@jp-probe.com



2026年度前期
第24回インフラ調査士
資格認証試験 受験者情報

【二次試験結果】

8月4日(火)～5日(水)
会場：川崎市産業振興会館
(川崎市幸区)

資格	橋梁 (鋼橋)	橋梁 (コンクリート)
受験者数	35名	44名
合格者数	32名	31名

資格	トンネル	付帯施設
受験者数	42名	37名
合格者数	20名	34名

2026年度前期 第36回配筋探査技術者資格認証試験 受験者情報

前期配筋探査実技(二次)試験結果、資格認証者・合格率及び後期資格認証試験日程は次のとおりです。

配筋探査技術者 (土木)実技試験結果 (8月実施)		関東	関西	受験者合計	合格者	合格率
	土木(電磁波レーダ法)	58名	69名	127名	91名	72%
	土木(電磁誘導法)	43名	51名	94名	72名	77%
配筋探査技術者 (建築)試験結果(6月実施)	建築	40名	—	40名	40名	100%

2026年度後期 配筋探査技術者(土木)資格認証試験日程		
	関東(学科:東京、実技:川崎)	関西(大阪)
学科(一次)試験	2026年11月25日	2026年11月25日
実技(二次)試験	2027年2月24日～26日	2027年2月16日～18日

2026年度後期 配筋探査技術者(建築)資格認証試験日程 (試験会場:関東)		
建築学科講習・建築修了試験(eラーニング)	2026年10月2日～10月22日	
建築実技講習・建築実技試験(同日開催)	2026年11月18日～11月19日	

講習会開催情報	配筋探査実技講習会	〔教育部会〕	関東:7/7～7/9、関西:7/28、7/30	受講者 64名
	NDI資格取得のための受験対策セミナー	〔東日本支部〕	8月29日～9月4日	受講者 25名
	NDIレベル2秋期一次試験対策セミナー	〔関西支部〕	9月5日	受講者 31名
講師派遣情報	労働政策研究・研修機構 労働大学校	〔令和8年度検査業務専門II研修〕	9月1日～2日	

本 部 会員動向 令和8年9月30日 現在 192社 (東日本支部77社、関西支部42社、西日本支部40社、機材支部33社)

Pony 可搬式エリアモニタ PEMG



特徴

- ・内蔵バッテリーで連続8時間稼働
- ・防滴仕様で屋内外問わず使用可能
- ・検出器ケーブルは最長30m
- ・視認性の高い大型表示ディスプレイ

主な仕様

- ・測定線種: X線、γ線
- ・エネルギー範囲: 30keV～1.5MeV
- ・検出方式: GM管式
- ・測定範囲: 0.1～999.9μSv

※オーバーフロー時、エラー時は「999.9」点滅表示

ポニー工業株式会社
www.ponyindustry.co.jp

お問合せ先
(大阪) 06-6262-6510
(東京) 03-5472-1091

変える、の一番近くに。

RIKOH-S

非破壊検査機器の販売・修理・校正・レンタル



工業X線発生装置 超音波探傷器 USM38JE 超音波厚さ計 DM5E

カーリース (日本カーソリューションズ㈱代理店)
検査技術者の派遣 (派34-300512)
お気軽にご相談ください。

理工サービス株式会社
〒733-0035 広島市西区南観音6丁目3番10号
TEL: (082) 292-2552 (代) FAX: (082) 295-0566
E-mail: rikoh@rikoh-s.com URL: https://www.rikoh-s.com/



RYOSHO デジタル超音波探傷器

◎ 標準機能からカスタムまで幅広いニーズに対応。
◎ 「中小企業等経営強化法の適用」で税制措置を受けることができます。



UI-29 UI-39

RSE 菱電湘南エレクトロニクス株式会社
〒247-0066 神奈川県鎌倉市山崎25番地
TEL 0467-45-3411 FAX 0467-44-7517
https://www.rsec.co.jp



EVIDENT

OmniScan X4、史上最高スペックへ 128:128 対応



● 64:128 モデルにオプション追加で 128:128 へアップグレード
● 本体上でマトリックスアレイプローブの設定が可能
● 応力腐食割れ (SCC) など複雑な検査で真価を発揮

omniscan X4

ワブテック・インスペクション・テクノロジーズ・ジャパン株式会社
☎ 0120-255-072 ims.evidentscientific.com

